



## 2021年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年1月29日

上場会社名 株式会社ツカモトコーポレーション  
 コード番号 8025 URL <https://www.tsukamoto.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 百瀬 二郎

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役本部統括 (氏名) 田中 文人

TEL 03-3279-1330

四半期報告書提出予定日 2021年2月5日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	12,631	2.9	10		71	61.2	22	44.4
2020年3月期第3四半期	13,015	3.4	8		44		40	

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 223百万円 (122.4%) 2020年3月期第3四半期 100百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	5.66	
2020年3月期第3四半期	10.17	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	26,003	11,076	42.6
2020年3月期	26,119	11,012	42.2

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 11,076百万円 2020年3月期 11,012百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期				40.00	40.00
2021年3月期					
2021年3月期(予想)				30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,000	4.5	70	65.1	150	46.6	100	77.4	25.11

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料7ページ「2.(3)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年3月期3Q	4,069,747 株	2020年3月期	4,069,747 株
------------	-------------	----------	-------------

期末自己株式数

2021年3月期3Q	87,713 株	2020年3月期	87,439 株
------------	----------	----------	----------

期中平均株式数(四半期累計)

2021年3月期3Q	3,982,181 株	2020年3月期3Q	3,982,591 株
------------	-------------	------------	-------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料3ページ「1.(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## 添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	7
(追加情報) .....	7
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症が収束に向けて推移し、経済にも好影響が出ることも期待されましたが、依然としてその猛威は衰えず、第3波による感染者の増加を受けた商業施設の営業時間短縮・不要不急の外出自粛の再要請等もあり、景気の先行き不透明感が高い状態が続いております。

このような環境下において当社グループは、健康・生活事業におきましては、GMSや家電量販店などの店頭販売は新型コロナウイルス感染症の影響を受けましたが、EC販路やTV通販は巣ごもり需要の増加等により好調に推移し、増収増益となりました。しかしながら、和装事業やホームファニッシング事業におきましては、緊急事態宣言の発令により主力販路先である百貨店・専門店等の多数がおよそ2か月間店舗を休業した影響を受けて売上が大幅に減少し、洋装事業におきましては、セールスプロモーション向け商品の受注獲得に注力して売上はほぼ前年並みとなりましたが、短期サイクルでの生産・納品対応による物流費の増加もあり営業損失の計上となりました。

以上のように厳しい経営環境下ではありますが、当社グループは、2019～2021年度を計画期間とする中期経営計画に基づき、効率経営の推進と経営資源の有効活用による生産性の向上を図り、経営基盤の強化を進めてまいります。また、営業部門におきましては、在庫の効率化と新事業領域の開発を今年度の基本方針に掲げ、全営業部門の黒字化の達成に取り組み、それを達成するために社内の業務改革、意識改革、風土改革を推進し、活力のある集団として働きがいのある会社となつて企業価値の向上につなげてまいります。

当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は12,631百万円（前年同期比2.9%減）、営業利益は10百万円（前年同期は営業損失8百万円）、経常利益は71百万円（前年同期は経常利益44百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は22百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益40百万円）となりました。

セグメントの状況は以下のとおりです。

#### <和装事業>

ツカモト市田株式会社における和装事業につきましては、4月に発令された新型コロナウイルス感染症の拡大による緊急事態宣言により、計画しておりました催事が中止もしくは延期となる事象が多数発生したことが影響し、大幅な減収となりました。

以上の結果、当事業分野の売上高は1,263百万円（前年同期比37.9%減）、セグメント損失（営業損失）は263百万円（前年同期はセグメント損失114百万円）となりました。

#### <洋装事業>

メンズ事業、レディス・OEM事業につきましては、4月に発令された新型コロナウイルス感染症の拡大による緊急事態宣言により、商業施設等が営業自粛したことによる店頭不振の影響が大きく、また秋冬物の販売時期になりましても衣料品需要の回復スピードは鈍く、受注が減少して減収減益となりました。

ユニフォーム事業につきましては、ユニフォーム商品の受注はやや前年を下回りましたが、セールスプロモーション向け商品の受注獲得に注力し増収となりました。しかし、短期サイクルでの生産・納品対応による物流費が増加したこともあり損失の計上となりました。

以上の結果、当事業分野の売上高は5,183百万円（前年同期比0.2%増）、セグメント損失（営業損失）は38百万円（前年同期はセグメント利益86百万円）となりました。

<ホームファニッシング事業>

ホームファニッシング事業につきましては、4月に発令された新型コロナウイルス感染症の拡大による緊急事態宣言により、主力販売先である百貨店や直営店を展開する商業施設が営業を自粛し、およそ2か月間の販売機会ロスが発生した影響により減収となりました。

以上の結果、当事業分野の売上高は2,445百万円（前年同期比11.3%減）、セグメント損失（営業損失）は85百万円（前年同期はセグメント利益8百万円）となりました。

<健康・生活事業>

健康・生活事業につきましては、GMSや家電量販店などの店頭販売は新型コロナウイルス感染症の影響を受けましたが、EC販路やTV通販は巣ごもり需要の増加等により好調に推移し、売上・利益ともに大幅に増加し増収増益となりました。

以上の結果、当事業分野の売上高は3,038百万円（前年同期比26.7%増）、セグメント利益（営業利益）は67百万円（前年同期はセグメント損失139百万円）となりました。

<建物の賃貸業>

建物の賃貸業につきましては、テナント誘致が進んだことに加え、修繕費用が減少したこともあり増収増益となりました。

以上の結果、当事業分野の売上高は792百万円（前年同期比7.0%増）、セグメント利益（営業利益）は474百万円（前年同期はセグメント利益385百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間における資産の部は、前連結会計年度末に比べ116百万円減少し、資産合計は26,003百万円となりました。これは流動資産における現金及び預金が525百万円増加し、受取手形及び売掛金が912百万円減少したことに加え、投資その他の資産における投資有価証券が時価評価等により279百万円増加したことによります。

また負債の部は、前連結会計年度末に比べ180百万円減少し、負債合計は14,926百万円となりました。これは流動負債における支払手形及び買掛金が854百万円、固定負債における長期借入金が200百万円それぞれ減少したこと及び流動負債における短期借入金が655百万円増加したことが主な要因であります。長期借入金、短期借入金の変動は主に返済期限による長期、短期の振替によるものですが、借入金全体としましては454百万円の増加となりました。

純資産の部は、前連結会計年度末に比べ64百万円増加し、純資産合計は11,076百万円となりました。これは利益剰余金が136百万円減少し、その他の包括利益累計額におけるその他有価証券評価差額金が219百万円増加したことが主な要因となります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想としましては、現段階で2020年10月30日発表の通期連結業績予想の修正は行っておりません。ただし、見直しが必要と判断した場合には速やかに開示いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,417	1,942
受取手形及び売掛金	3,221	2,309
電子記録債権	33	82
たな卸資産	2,794	2,476
その他	408	701
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	7,873	7,511
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,599	2,551
土地	10,581	10,581
その他(純額)	136	152
有形固定資産合計	13,317	13,285
無形固定資産		
その他	120	124
無形固定資産合計	120	124
投資その他の資産		
投資有価証券	2,723	3,003
出資金	1,500	1,500
退職給付に係る資産	303	321
その他	291	264
貸倒引当金	△11	△8
投資その他の資産合計	4,807	5,081
固定資産合計	18,245	18,491
資産合計	26,119	26,003
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,333	1,479
電子記録債務	986	1,080
短期借入金	5,087	5,742
未払法人税等	61	110
未払消費税等	17	34
返品調整引当金	35	14
資産除去債務	—	15
その他	459	473
流動負債合計	8,980	8,950
固定負債		
長期借入金	3,331	3,131
繰延税金負債	1,760	1,843
再評価に係る繰延税金負債	12	12
退職給付に係る負債	203	213
資産除去債務	49	52
その他	767	721
固定負債合計	6,125	5,975
負債合計	15,106	14,926

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,829	2,829
資本剰余金	709	709
利益剰余金	7,328	7,192
自己株式	△104	△105
株主資本合計	10,762	10,625
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	316	535
繰延ヘッジ損益	7	△1
土地再評価差額金	9	9
為替換算調整勘定	2	1
退職給付に係る調整累計額	△84	△94
その他の包括利益累計額合計	249	451
純資産合計	11,012	11,076
負債純資産合計	26,119	26,003

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
売上高	13,015	12,631
売上原価	9,150	9,012
売上総利益	3,865	3,619
返品調整引当金繰入額	20	14
返品調整引当金戻入額	71	35
差引売上総利益	3,915	3,641
販売費及び一般管理費	3,924	3,631
営業利益又は営業損失(△)	△8	10
営業外収益		
受取利息	4	2
受取配当金	102	97
投資有価証券売却益	2	5
保険配当金	7	6
為替差益	1	9
その他	15	23
営業外収益合計	134	144
営業外費用		
支払利息	74	75
手形売却損	2	2
その他	3	4
営業外費用合計	81	82
経常利益	44	71
特別利益		
雇用調整助成金	—	81
特別利益合計	—	81
特別損失		
組織再編関連費用	8	10
新型コロナウイルス感染症による損失	—	74
特別損失合計	8	85
税金等調整前四半期純利益	36	67
法人税、住民税及び事業税	△4	45
法人税等調整額	—	—
法人税等合計	△4	45
四半期純利益	40	22
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	40	22
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	102	219
繰延ヘッジ損益	△0	△8
為替換算調整勘定	△1	△0
退職給付に係る調整額	△40	△9
その他の包括利益合計	60	201
四半期包括利益	100	223
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	100	223
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

### (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

#### (継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

#### (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

#### (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

##### 税金費用の計算

税金費用につきましては、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

#### (追加情報)

##### 連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用

当社及び国内連結子会社は、「所得税法等の一部を改正する法律」(令和2年法律第8号)におきまして創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目につきましては、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」(実務対応報告第39号 2020年3月31日)第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日)第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額につきましては、改正前の税法の規定に基づいております。

##### 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う会計上の見積り

新型コロナウイルス感染症の影響は現在においても継続しており、当社グループの事業活動にも大きな影響を及ぼしております。従来その影響は昨年未まで続き、その後の経済は緩やかに回復に向かうものと想定しておりましたが、当第3四半期連結会計期間末における国内の新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、その影響は少なくとも年度末(2021年3月末)までは続くものと思われま。その後の経済におきましても、回復に向かう時期というのは、非常に想定しづらい状況にあります。よって当第3四半期連結会計期間末において貸倒引当金、固定資産の減損等の会計上の見積りの見直しを行っております。

なお、上記の仮定は不確実性が高く、新型コロナウイルス感染症の拡大状況や経済の影響によっては、第4四半期連結会計期間以降の連結財務諸表に重要な影響を及ぼす可能性があります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					合計
	和装事業	洋装事業	ホームファニッシング事業	健康・生活事業	建物の賃貸業	
売上高						
外部顧客に対する売上高	2,033	5,174	2,744	2,399	663	13,015
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	—	12	—	77	89
計	2,033	5,174	2,756	2,399	740	13,105
セグメント利益又はセグメント損失(△)	△114	86	8	△139	385	226

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	226
セグメント間取引消去	2
全社費用(注)	△236
四半期連結損益及び包括利益計算書の営業損失(△)	△8

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2020年4月1日 至 2020年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					合計
	和装事業	洋装事業	ホームファッション 事業	健康・生活 事業	建物の 賃貸業	
売上高						
外部顧客に対する 売上高	1,263	5,183	2,432	3,037	714	12,631
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	13	1	78	93
計	1,263	5,183	2,445	3,038	792	12,724
セグメント利益又は セグメント損失(△)	△263	△38	△85	67	474	155

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との  
差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	155
セグメント間取引消去	—
全社費用（注）	△145
四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益	10

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。